



音楽家を目指す少年の
身にふりかかる
人生のでたらめな悲喜劇



「麦ふみクーツェ」

いしいしんじ 著

新潮社（新潮文庫）

REVIEW

今まで読んだ中で、この麦ふみクーツェほど不思議な物語はありません。音楽家を目指す少年には、とん、たたん、とん、という不思議な音が聞こえます。このリズムをもとに少年が正しく成長していく物語です。間違っただけが正とされていることが多い世の中で、少年がどのように自分を見つめ直し、その間違いと向き合っていくかを深く感じることでできる本でした。物語全体の独特な雰囲気も、いしいしんじさんの良い所だと思います。



十人の力を合わせて、
スポーツで頂点を取る



「風が強く吹いている」

三浦しをん 著

新潮社

REVIEW

—あいつだ。俺がずっと探していたのは—
走るために生まれながら、走ることから見放されかけていた主人公清瀬灰二と蔵原走が出会う。そして二人は陸上とは無縁の八人の仲間とともに「箱根駅伝」を目指す。個性豊かな十人の大学生達が、長距離を走ることに夢中で突き進み、自分の限界に挑戦し、ゴールを目指して襷を繋ぐことで、仲間と繋がっていく青春ストーリー。

陸上のことを知らない人にもオススメの一冊。読み出したら止まらない!!



父親を
殺したのは
誰だ？



「カラマーゾフの兄弟 1~5巻」

フョードル・ドストエフスキー 著
光文社(光文社古典新訳文庫)

REVIEW

カラマーゾフ家の家長が殺害された。カラマーゾフの兄弟は強欲な父から解放される。しかし、この殺害事件より、カラマーゾフの3兄弟は嫌疑がかけられ、皆の日常は崩れていく。

父親が死んだ後でも、とめどなく流れ続けるカラマーゾフの血と黒い感情。人間ドラマを描いた超大作。黒塗りの家族の真実にあなたも吸い込まれること間違いなし！

一体誰が父親を殺したのか…!?



「あなたには真実が
みえますか？」



「出版禁止」

長江俊和 著

新潮社

REVIEW

彼は7年前に起きたある事件の謎を暴こうとしていた。それは、天才ドキュメンタリー作家の「心中事件」。相手の女だけが生き残った。しかもその女は妻ではなく、愛人。黒い噂が飛び交い、口を閉ざし続けた女であったが、7年後、とうとう女の取材に成功する！――しかし、完成したルポは封印された。その理由は、あなたが解き明かしてください。ページを遡って伏線を確認するのが好きな人にオススメです。ラスト2行の衝撃は圧巻です！